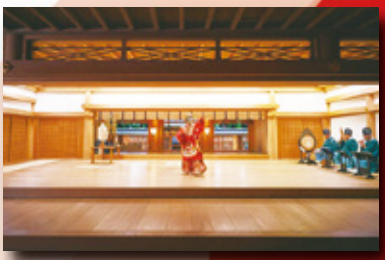
一般財団法人　山岡記念財団　第9回若者文化シンポジウム　日英同時通訳

歴史が紡ぐ日独の文化



［第1部］発表1

日本舞楽鑑賞時の感情的反応に関する日独文化比較研究

櫃割 仁平
Hitsuwari Jimpei

ヘルムートシュミット大学ポスドク研究員
日本学術振興会海外特別研究員

［第1部］発表2

ドイツと日本における戦後移民の文化的記憶

スティーブン・アイビンス
Steven Ivings

京都大学 准教授

［第1部］発表3

アートと政治の境界をめぐる交渉: 日独比較

劉 カイウェン
Liu Kaiwen

東京大学大学院 学際情報学府 博士課程

［第2部］発表4

日本とドイツの士官学校における反軍国主義と再軍備の共存

ベン・メラー
Ben Moeller

オックスフォード大学博士課程

［第2部］発表5

対立から理解へ：日本とドイツの博物館が子どもたちに戦争を教える戦略

ジャスミン・ルッカート
Jasmin Rückert

デュッセルドルフ・ハインリッヒ・ハイネ大学講師、博士課程

2025
3/12（水）

シンポジウム 15:00～17:50［受付開始14:30］
交流会 18:00～19:30
※シンポジウム終了後に近隣のレストランで交流会を行います。軽食をご用意しておりますので、お気軽にご参加下さい。シンポジウムのみの参加も可能です。

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

オンライン講演（ZOOM）同時開催

※要事前申込／参加費無料（会場での参加は先着30名）

お申し込み方法　山岡記念財団ホームページよりお申し込みください。
https://yamaoka-memorial.or.jp/event/2025/0312-01.html

申し込み締切　2025 3/11（火）12:00迄

主催　一般財団法人 山岡記念財団　〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町1番27号 ABC-MART 梅田ビル7階
Tel:06-7636-0219 Fax:06-7636-0212
E-mail:yamaoka-memorial@yanmar.com

共催　京都大学 KYOTO UNIVERSITY　京都大学大学院 人間・環境学研究科 附属学術越境センター
後援　ドイツ連邦共和国総領事館　ドイツと日本 Zukunft gestalten ともに未来へ
ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川　GOETHE INSTITUT
一般社団法人 大阪日独協会
京都大学学術研究展開センター(KURA)　KURA
YANMAR

一般財団法人 山岡記念財団
第9回若者文化シンポジウム

歴史が紡ぐ日独の文化

発表者

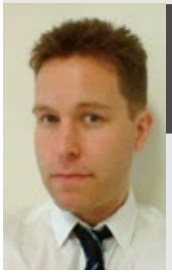
櫃割 仁平 Hitsuwari Jimpei

ヘルムートシュミット大学ポスドク研究員
日本学術振興会海外特別研究員

ヘルムートシュミット大学ポスドク研究員（日本学術振興会海外特別研究員）。京都大学教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。美のメカニズムに興味を持ち、現在は日本的な美的感性を研究するために、ドイツで文化比較研究を行っている。

日本舞楽鑑賞時の感情的反応に関する日独文化比較研究

近年、ダンスなどの舞台芸術に関する美的体験研究が盛んに行われている。一方で、その研究のほとんどが西洋的題材を扱っていることを考慮して、本研究では雅楽の舞に着眼した。日本人とドイツ人が雅楽の舞を鑑賞した時に、どんな感情が生起するのか、また舞のどの要素がその感情を生起させたのか、などの問いを大規模な心理実験によって明らかにする。



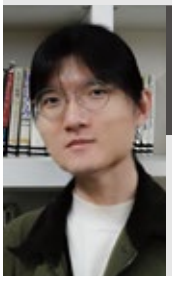
スティーブン・アイビンス Steven Ivings

京都大学 准教授

ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(LSE)で経済史の博士号を取得後、ハイデルベルク大学に勤務し、2017年より京都大学経済学研究科に在籍。近現代における北東アジアの社会経済史や帝国の記憶について比較研究している。

ドイツと日本における戦後移民の文化的記憶

本研究は戦後人口移動がドイツと日本でどのように記念されてきたかを検証する。特に第二次世界大戦の終結による日独両国の植民地・戦時帝国の崩壊に伴う大量人口移動を検証する。組織的な本国送還（引揚げ）、混乱した疎開、暴力的な追放など、さまざまな状況下で何百万人ものドイツ人、日本人等を余儀なく移住させられ、両国の戦後社会における重要なサブグループを形成した。本研究では、日独両国におけるこのテーマを扱う主要な記念館やモニュメントを分析する。



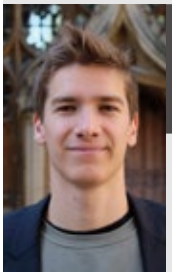
劉 カイウェン Liu Kaiwen

東京大学大学院 学際情報学府 博士課程

専門は日本写真史、ジェンダー論、メディア研究。1980ー90年代という雑誌メディアの全盛期とアート写真市場の黎明期において、人々の撮る欲望、見る欲望と見られる欲望がいかに「写真」に関わる錯綜した諸言説を通して正当化されていたかを研究している。

アートと政治の境界をめぐる交渉: 日独比較

あいちトリエンナーレ（2019）やドクメンタ15（2022）を巡る一連の論争をはじめ、近年、ドイツと日本においてアートと政治の境界が揺れ動いている。より多くのアーティストがアートを政治参加の手段として捉える一方、公立機関による助成展示への介入も相次いでいる。本研究は、両国における言説変動がいかにトランスナショナルなフェミニズムやポストコロニアリズム運動の影響を受けつつ、それぞれの歴史記憶の政治とも密接に結びついているかを解明することを目指す。



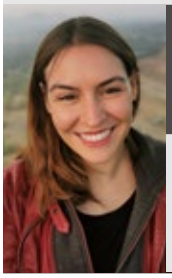
ベン・メラー Ben Moeller

オックスフォード大学博士課程

オックスフォード大学地域研究専攻博士研究生。専門は教育と政治の関わり。博士研究で防衛大学校における幹部自衛官教育制度を研究している。

日本とドイツの士官学校における反軍国主義と再軍備の共存

近年、安全保障状況の悪化により、日本及びドイツにおける軍隊の予算と社会的なステータスが大幅に上がった。 しかし、第二次世界大戦の背景で、一般社会と軍隊との関係はテンションと不信によって損なわれる。本研究では、ドイツ及び日本の士官教育を対象にして、士官学校の学生が歴史、政治、社会における軍隊の役割などについての考え方がどのように教えられるかという疑問に答えるように、両国の士官学校での参与観察調査を行っている。



ジャスミン・ルッカート Jasmin Rückert

デュッセルドルフ・ハインリッヒ・ハイネ大学講師
博士課程

ハインリヒ・ハイネ・デュッセルドルフ大学現代日本研究所の講師。現在、満州における日本の写真について博士論文を執筆中。関心は歴史や視覚的文化、「記録の政治」など、多岐に渡る。

対立から理解へ：日本とドイツの博物館が子どもたちに戦争を教える戦略

日本とドイツの博物館が、様々な年齢層の子供達に対し、戦争関連コンテンツをどのように視覚化し紹介するのか、その方法や教育的アプローチを比較する。それは、"戦争と平和"という観点から国家の歴史がどのように想像されるのか、さらに、勝敗のストーリーはどのように博物館で利用され、または勝敗を越えたアプローチまでなされるのかを問いかける。

特別協力

田野 大輔 Daisuke Tano
甲南大学文学部 教授
山岡記念財団 諮問委員

吉田 純 Jun Yoshida
京都大学大学院 人間環境学研究科 教授
山岡記念財団 諮問委員

ビョーン＝オーレ・カム
Björn-Ole Kamm
京都大学大学院 文学研究科 講師

【会場】 **ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川**
〒606-8305　京都市左京区吉田河原町19-3

【アクセス】

■JR京都駅より～（所要時間 約30分）	市バス4、17、205番「荒神口」下車、徒歩5分 京都バス17番「荒神橋」下車、徒歩2分
■バス停「四条河原町」より～（所要時間 約15分）	市バス3、17、205番「荒神口」下車、徒歩5分 京都バス16、17番「荒神橋」下車、徒歩2分
■京阪電車～	「神宮丸太町」下車（5番出口）、北に徒歩6分 「出町柳」下車（2番出口）、南に徒歩8分